

帰国年の明治三十九年十二月二十六日付で本校教授となった。

## ② 専門学校令発布

本年三月二十七日、勅令第六十一号により専門学校令が発布され、高等の学術、技芸を教授する学校は専門学校とされた。これには官立学校と文部大臣の認可を受けた公、私立学校が含まれ、いずれも修業年限は三年以上と定められた。この法令により、千葉・仙台・岡山・金沢・長崎の各医学校、東京外国語学校、東京音楽学校および本校は官立専門学校となった。なお、この法令は昭和二十二年学校教育法の公布によって廃止される。

## ③ 沼田一雅と陶像研究

沼田一雅は「東京美術学校旧職員履歴書」によると明治六年福井に生まれ、満六歳のときから父に彫刻を習い、明治十九年に兵庫県品評会へ写生像置物を出品して銅賞を受賞。翌二十年奈良へ遊学し、東大寺法華堂不動尊を模造。同二十四年一月修業のため上京し、同年二月以降六ヶ月間、竹内久一の奈良古美術模刻に従い、同年十月から一年間、岡崎雪声に蠟型を学び、翌二十五年十一月から二年間、竹内久一に彫刻を学んだ。彫刻競技会や日本美術協会に出品して受賞を続け、二十七年九月に本校鑄金科蠟型教場助手となり、二十九年四月に助教教授に昇格。三十三年パリ万国博で金牌を受け、一躍名を馳せた。

一雅はもと大阪天王寺畔の焼物屋の息子で、道端で土いじりをし

ているのを通りかかった竹内が見つけ、才能を見込んで東京へ伴れてきて修業させたという。この話は正木直彦著『回顧七十年』所収「沼田一雅と陶像とメダル」の冒頭に記されており、今日これが定説となっている。しかし、一雅を発見したのは海野美盛だという説もある。こちらは一雅がパリ万国博で金牌を受賞した際、『中央新聞』（明治三十三年十月八日）に掲げられた「金鐘青年彫刻家（二）沼田一雅」と題する記事で、これによると、一雅の父一珍は福井藩士であったが、維新後大阪に移って商業を試みて失敗し、京都に移り、池田清助に陶土を分けて貰って拵りものを作って生計をたてた。一雅は父の手伝いをしていううちに才能を発揮し始め、十五歳のとき父と大阪に遊び、千日前で象を見、これを作ったところ、よく出来て大阪博物館に陳列され、大賀可楽に激賞された。そして、

「其の翌年また奈良に遊び三月堂の不動を模造せり 時に海野美盛たま〜京都に遊び一雅の伎倆凡ならざるを知り共に上京せむことを勧めしかとこの時は一雅すでに一家の生計を助けつゝありしかばその事果さず その翌十七歳に至りて初めて志を決して京都を辭し東京に來りて美盛に依り幾ばくもなく竹内久一に就きて學びまた之に従ふて奈良に行き居ること一年ばかり大に奈良朝の彫刻を研究するを得たり」

という。海野美盛は明治二十二年前後四年間、「山城大和紀伊ヲ歴遊シ古社寺之国宝及正倉院御物之拝觀ヲ許可セラレ研究」し、その間京都で一年余り小倉惣次郎に洋式油土彫刻を、今尾景年に四條派

の絵を習った(『東京美術学校旧職員履歴書』)というから、右の記事は  
時的には符合するが、果たして真相はどちらであろうか。

それはさておき、正木直彦によると、正木は一雅が彫刻を陶器に  
応用して見たいと言っているのを聞き、パリでロダンの彫刻を原型  
としたセーブル製の「アーブル市の歴代の市長の像」や「童話作家  
のフェヌロン」陶像を見て陶像こそ日本の庭園や建物に調和すると  
考えていた折りから、一雅をセーブルに留学させるとし、清浦  
農商務大臣に頼んで一雅を同省実業練習生としてフランスへ送っ  
た。一雅は前出履歴書によれば明治三十六年二月に一旦助教を辞  
し、同年四月十八日留学の途につき、同年六月から十月までパリの  
アカデミー・ジュリアンで「画家フェリ氏」および「彫刻家ベルレ  
氏」(昭和三十年版『日本美術年鑑』では「サンドーズ氏」)に師事した  
と、十一月セーブルの国立陶磁器製造所に入所。三十九年七月に帰  
国した。その間、三十八年八月には彫刻術研究のためベルギー、オ  
ランダ、ドイツ、イタリアに旅行し、同年九月からオーギュスト・  
ロダンに師事した。一雅がセーブルで作った動物を主題とする白磁  
置物の原型はフランス人に変容されたらしい。正木の前掲書や  
「沼田一雅氏の窯芸術につき」(『東京美術学校校友会月報』第十四巻第  
五号)によれば、一雅はそのために帰国の際フランス政府から勲章  
(『アカデミー・ドゥ・オフィシエ』勲章。前出『日本美術年鑑』には明治四  
十三年授与とある。)を贈与されたという。

帰国後の一雅は雇として本校に復職し、校内に小規模の窯を築い  
て制作を試み、傍ら農商務省工業試験所嘱託となり、陶磁彫刻の指  
導に当たった。明治四十年十二月教授に昇格。塑造を指導した。彼

の陶磁彫刻の技術自体は本校の教育上には十分活用されなかった様  
子である。大正十年から十一年にかけて再びセーブルで研究し、フ  
ランス政府から「オフィシエ・ドゥ・ランストリユクシヨン・レピ  
ュブリック」記章、「シュバリエ・ドゥ・ラ・レジョン・ドゥヌー  
ル」勲章を贈られた。昭和八年教授を退官し、引き続き同十九年ま  
で講師として在職している。

一雅の陶磁彫刻技術が初めて十分に発揮されたのは、晩年、京都  
の国立陶磁器試験所の技師となり、大きな窯を自由に使えるようにな  
ったときで、一雅は等身大の正木直彦陶像を制作し(昭和十一年)、  
本校に寄附した。現在正木記念館に安置されている像がこれである。

#### ④ 女生徒養成に関する建議

本年四月の新聞各紙に標題の記事が掲載されている。例えば四月  
二十日の『報知新聞』には

○東京美術學校と女生徒 岡倉〔寛三〕前校長時代に物議の爲め  
立消と爲りし同問題に付現校長正木直彦氏は時期既に到りしとし  
て此程女生徒養成の意見を具し文部大臣に建議したり 左れど當  
局者中には校規紊亂を招くの基なりとて反對の意見を有せるもの  
もある由なれば中々容易には實行に至るまじと

とあり、同日の『東京朝日新聞』には

○美術學校女生徒養成の議 上野の東京美術學校に於て女生徒を